



国の天然記念物に指定されている本市の海岸で、
長年にわたってウミガメの保護活動に従事する

ウミガメ保護監視員



▲ 6月16日に浜岡砂丘で産卵したアカウミガメと8人のウミガメ保護監視員
後列：渡辺元治さん、澤部春一さん、増田 均さん、良知正美さん
前列：高田正義さん、早馬彰夫さん、大澤茂美さん、横山俊明さん

御前崎とアカウミガメ

本市は、海岸1キロ当たりにおけるアカウミガメの上陸頭数・産卵数が本州で一番多く、一部の海岸が産卵地として国の天然記念物に指定されている。これは、国内でも本市の海岸と徳島県日和佐大浜海岸の2カ所しかない。

下岬海岸で5月27日早朝、絶滅危惧種に指定されているアカウミガメの初上陸・初産卵がウミガメ保護監視員によって確認された。監視員の活動は、昭和47年に旧御前崎町教育委員会が2人のウミガメ保護監視員を委嘱し本格的に始まった。現在は、市教育委員会から委嘱された8人が保護活動に従事している。

ウミガメ保護監視員の役割

保護監視員の朝は早い。産卵期間中は、朝4時から5時まで担当区域を巡視してアカウミガメの足跡を探す。産卵を確認した場合、台風被害や盗掘、外敵から保護するため、砂中から卵を取り出し、下岬のふ化場に移動させる。

昭和52年から続いている御

前崎小学校でのウミガメ観察飼育活動にも携わる。5年生になった児童は、校内にある飼育小屋で子ガメに餌を与えたり歯ブラシで甲羅を磨いたりして大切に育てる。自分の住むまちの環境問題や命の大切さ、思いやりの心を育むことが目的だ。

上陸頭数と産卵数の減少

「アカウミガメの上陸頭数と産卵数が減少しています。これは、海岸と海中にあるプラスチックやビニールなどのゴミが原因の一つです。ウミガメがこれらを食べてしまうと最悪の場合、死に至ります。このゴミ問題は、ウミガメだけでなく他の生態系にも影響を及ぼします。私たちは、自然生物に対してより一層の関心を持つ必要があります」と保護監視員の皆さんは注意喚起する。続けて「この活動に興味がある人は一緒にやりましょう」と笑顔をみせた。

私たちは、これからもウミガメや豊かな自然を後世に残していくため、一人一人が継続して環境美化に努める必要があるのではないだろうか。